

時代に流されず血統守り復権

■筆者プロフィル■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

和牛ができるまでには2種類の農家が関わっている。一つは雌牛を飼つて子牛を生ませ、8～9ヶ月くらいまで育てる繁殖農家。もう一つは子牛を市場から買ってきて、約2年かけて太らせ、食肉卸売市場に出荷する肥育農家だ。

但馬や淡路には繁殖農家が多く、播磨や阪神地域には肥育農家が多い。松坂や近江は肥育農家が多く、但馬牛にとっては古くからの「お得意さん」だ。

11月8日に神戸市の食肉卸市場で全国但馬牛枝肉共進会があった。兵庫県の繁殖農家で生まれ各地の肥育農家で育った但馬牛を集め、その肉を審査して競う催しで、今年で

5回目。第1回は2000年に開かれた。そのころ、但馬牛は史上最大のピンチを迎えていた。牛肉輸入自由化、バブル経済の崩壊以来、牛肉の値段は下降の一途をたどっていた。全国の黒毛和牛は大型化を目指して成長が早く、霜降りも多い鳥取や島根に源を発する家系の牛たちが急速に広がった。そうなると成長が遅く、小さい但馬牛はたちまち劣勢に立たされた。さらに当時のエコス「谷福土井」に遺伝病があることが判明し、処分しなければならず、弱り目にたけり」という状況だった。

但馬牛以外の系統を導入するとなると、歴史的転換となる。1999年、兵庫県は繁殖農家、肥育農家、食肉事業者などを集めて議論し、「やっぱり但馬牛にこだわっていこう」という方針になった。それでも時代の要求に応えられなくては滅びてしまう。但馬牛復活ののろしを上げるイベントを行うことになった。主会場の淡路夢舞台では、特設

博物館を開設して但馬牛の歴史や特徴を紹介し、神戸市食肉卸売市場で全国但馬牛枝肉共進会を開いた。繁殖農家も、肥育農家も、肉屋さんも但馬牛の復活を信じて歯を食いしばって頑張った結果、徐々に但馬牛の評価が高まってきた。そうなると「全国但馬牛枝肉共進会をまたやろう」ということになり、2003年に第2回を開催し、以来4年ごとに開いていく。全国但馬牛枝肉共進会をまたやろう」ということになり、2003年に第2回を開催し、以来4年ごとに開いていく。



全国但馬牛枝肉共進会に出品された枝肉を観覧する生産者ら

渡辺 大直



★6★

5回目。第1回は2000年に開かれた。

そのころ、但馬牛は史上最大のピンチを迎えていた。牛

肉輸入自由化、バブル経済の崩壊以来、牛肉の値段は下降の一途をたどっていた。全国の黒毛和牛は大型化を目指して成長が早く、霜降りも多い鳥取や島根に源を発する家系の牛たちが急速に広がった。そうなると成長が遅く、小さい但馬牛はたちまち劣勢に立たされた。さらに当時のエコス「谷福土井」に遺伝病があることが判明し、処分しなければならず、弱り目にたけり」という状況だった。

但馬牛以外の系統を導入するとなると、歴史的転換となる。1999年、兵庫県は繁殖農家、肥育農家、食肉事業者などを集めて議論し、「やっぱり但馬牛にこだわっていこう」という方針になった。それでも時代の要求に応えられなくては滅びてしまう。但馬牛復活ののろしを上げるイベントを行うことになった。主会場の淡路夢舞台では、特設